

2026 年第 1 回慶應義塾福澤研究センター「ローカル・リーダー研究会」 2026.8.20

共催：慶應義塾大学経済学部附属経済研究所経済史ワークショップ

「池田成彬と慶應義塾ネットワーク」 要旨

松浦正孝(立教大学)

本報告は、現在報告者が刊行を準備しているミネルヴァ評伝選『池田成彬——個人の信用は、事業、国家の信用』のうち、池田成彬(1867(慶應 3).7.16-1950(昭和 25).10.9)と慶應義塾との関りを中心に紹介するものである。池田の慶應義塾別科入学からハーバード大学留学、時事新報社入退職、三井銀行時代、国政への参与、慶應義塾評議員としての活動、戦後皇室改革と、時系列に沿って検討したい。

日本史の教科書レベルでは池田成彬の名前は知られていないが、明治後期・大正・昭和の戦前・戦中から占領期にいたるまで、政財界において池田が果たした役割は極めて大きい。この時期の三井銀行、三井財閥、銀行などの金融業界における卓越した存在感はもちろんのこと、田中義一、宇垣一成、近衛文麿、平沼騏一郎といった政治家はすべて池田に大きく依存した。特に吉田茂は戦後、「池田大明神のおみくじを引く」と称して大磯の隣人池田を頻繁に訪れ、経済問題のみならず政局や人事などで事あるごとにその判断を仰いだ。

池田は、自身に強い影響を与えたものとして、父成章、頼山陽、アメリカを挙げているが、これに加えて岳父中上川彦次郎の影響も大きく、三井銀行時代に彼が名を成した大きな要因は慶應義塾ネットワークであった。一方、彼もまた慶應義塾評議員・理事・評議員会会長として林毅陸(1923-33)・小泉信三(1933-47)の両塾長を支え、大学の発展に大きく尽した。さらにそれとの関連もあって、後に「平成流」と呼ばれる皇太子への教育に間接的に関わることとなり、昭和天皇からはブレインの乏しい吉田茂への助言者としても強く期待された。

こうした池田と慶應義塾との関りについてのささやかな発見を、畏れ多くも聖地三田において専門家の先生方の前でお話し、ご叱正・ご助言を賜れば、望外の喜びである。